回覧

出雲郷小学校　学校だより

令和８年１０月

文責：校長

ああ　出雲郷小は　よいところ

https://www.city.matsue.ed.jp/adakae-e/

充実した２学期に「挑戦！」

10 月に入り、気候も過ごしやすくなりました。2 学期に入り各学年とも充実した学校生活を送っています。2 学期の始業式に話をした「挑戦」する自分を学校行事や学習で見せてほしいと思います。今月号は、各学年の様子を学級だよりからあだかえっこの様子を紹介したいと思います。

１年部「時計」（算数）

算数で何時と何時半の学習をしました。「何時」の 時は、「簡単。」といっていたこどもたちも「何時 半」が入ってくると混乱して分からなくなるようでした。3学期には「何時何分」が入ってきます。また、お家でも時計を意識した生活をしてみてください。

（1組「はじめのいっぽ」より）

（写真は3組「きらきら」より）→

２年部　「町たんけん」（生活科）

今週から生活科の町探検に向けてグループに分かれて動き出しています。今週はグループのリーダーを決めたり、班のめあてを決めたり、探検先がどんなところか予想したりしました。来週は予想したことから質問を考えるという活動に入ります。探検に出かける前に「どんなことをしているのかな。」「何があるのかな？」と想像を膨らませてから出かけたいところです。家庭でもぜひお子さんと話題にされてはいかでしょうか。

（2組「やってみよう!」より）　　（写真は2組「にこにこ」より）

３年部「しじみ漁体験」（総合）

朝は天気が悪く大丈夫かなと心配していましたが、雨に降られることもなく、途中から晴れて良い天気の中しじみ漁体験をすることができました。また、3－3全員揃って体調万全で参加できました！興味津々で楽しそうに活動するみんなの素敵な笑顔がみられてとても嬉しく思いました。（3 組「とびら」より）　　（写真は 2 組「トライ」より）

４年部「佐藤忠次郎さん」（社会）

15 日（木）に社会の学習の一環として、昔の農業機具と先人の佐藤忠次郎さんについてのお話を伺いました。まずは、昔の農作業で使われていた、千歯こきやサトー式稲麦こぎ機を使った稲麦こぎ体験を行いました。こどもたちは、「昔の人はこんなに大変なことをしていたのか」「全部手作業なのはすごい」と昔の農家の方々の苦労と工夫を実感していました。

次に、東出雲の先人である佐藤忠次郎についてのお話を聞きました。農家の人たちや地域の人たちのためを思って、稲麦こぎ機や焼玉エンジンなどの農業機器を発明するなど、東出雲の発展に情熱を注いだ忠次郎さんの生き方にふれ、こどもたちは真剣な表情でメモを取っていました。 最後に焼玉エンジンの見学を行いました。約 94 年前に作られた焼玉エンジンを持ってきていただき、 実際に動いているところを見ることができました。電気を使わずに灯油を燃料として動かしていること や1分間に 600 回転することに驚いていました。代表の子は、焼玉エンジンを動かす体験もさせていただき、動かすのにとても力がいることが分かりました。

（2組「えがお」より）　　（写真は、1組「みんなの声」より）

５年部「連合音楽会」（行事）

1日（木）は、松江市小学校中学校連合音楽会がありました。プラバホールに着き、ホールいっぱいのお客さんを見て、少し緊張していたこどもたち。合唱「Change!」、合奏「風になりたい」、 2曲とも練習のとき以上の集中力で素敵な演奏 を披露することができました。 自分たちが発表するだけでなく、宍道小、忌部 小、城北小の発表も聞きました。元気いっぱいな歌声、ソプラノとアルトのきれいなハーモニー、 歌に合わせた手話、何人ものソロ演奏など、それぞれの学校の素敵なところをたくさん見つけて いました。（文・写真とも 1 組「チャレンジ」より）

連合音楽会の様子は松江ケーブルビジョンで
11 月 22 日 20 時（予定）より放送されます。

６年部「修学旅行に向けて」（行事）

平和学習の一環として、学級で千羽鶴を作ってきました。平和の象徴として知られている折り鶴は、戦時中、被爆した佐々木禎子さんが闘病中に折っていたもので、千羽折ると願いが 叶うとされていました。平和学習で学んできたことをもとに学級でも願いを込めて作りました。修学旅行で広島に持っていき、平和の子の像に献鶴してきます。

『みんなが平和な世界で幸せに過ごせますように』 みんなで千羽鶴に込めたい思いを相談し、決めました。

（3組「LEVEL UP!」より）

↑（写真は1組「かがやき」より）

自転車に乗る時のルール・・・（最近、気になること）

風を切って自転車を漕ぐこどもの姿は、逞しく微笑ましいものです。しかし近年、その「当たり前」に変化が起きています。保護者の送迎増加などにより、幼少期から乗れる子と高学年でも乗れない子の**二極化**が進んでいます。特に車社会の地域では乗る機会が少なくなりがちです。懸念されるのは、経験不足のまま進学して突然、自転車通学を始めるケースです。慣れない道路で被害に遭うだけでなく、**自らが「加害者」になりうるリスク**も潜んでいます。

乗れるようになる指導において、補助輪を外すことはゴールではありません。重要なのは、交通ルールやヒヤリハットなどの実体験を通じ、「命を守る意識」を育むことです。

自転車という自由を得る喜びと、命を預かる責任。秋の夕暮れ時、ご家庭でもハンドルを握る我が子の目線に立ち、安全について深く語り合っていただければ幸いです。